

ご挨拶

ご挨拶

川 瀬 正 裕*



カヤバは、このたび創立90周年を迎えるとともに本誌においても記念となる第70号を発行することができました。これは、お客様や株主様をはじめとするステークホルダーの方々に向けて、当社グループが保有する技術や新製品開発およびモノづくりの成果を継続してご紹介し、その進化をお示しすることができた証であるとともに、これまでに本誌を支えていただいた関係者の方々のご支援の賜物であり、改めて御礼申し上げます。

本記念号では、巻頭言と論説の執筆にフルードパワー業界の学术界において著名な先生をお迎えしました。また、特別企画として各事業の将来展望を述べ、当社のコア技術における幅の広がりを紹介しております。

当社の技術の源流は、故萱場資郎氏が1919年に創業した萱場発明研究所とその後1935年に創立した萱場製作所において考案した数々の製品までさかのぼります。なかでも航空機用油圧緩衝器に適用された油圧技術は、後に自動車、二輪車、建設機械、ミキサ車、航空機、舞台装置、免振装置に応用され、当社の事業拡大につながる技術になりました¹⁾。

近年では、上記技術を当社におけるコア技術と位置付け、製品の電子制御化やモジュール化に向けた開発の推進、また製造現場や設計段階におけるデジタル技術（DXやAIおよびシミュレーションなどの解析技術）の活用など、時代背景に合わせた進化を展開しております。

昨今の当社の情勢を振り返りますと、2025年度は2023中期方針の最終年度にあたり、「品質経営を極める～TQMを全ての活動の起点に～」をスローガンに全社において以下の活動に注力してまいります。

①成長戦略

自動車や建設機械およびミキサ車におけるEV化やシステム化などの電動化に対応するた

めに設置した専門部門による技術開発の推進。

②革新的モノづくり

次世代に向けてモノづくりを進化させる活動をShip'30：Self-handing innovation plant 2030と名付け、デジタル技術（DXやAI）を基軸にした自己完結が可能な無人化工場の具現化。

③コスト低減活動

原材料やエネルギー価格の高騰、半導体の供給不足による生産調整などに耐えうるグローバル規模の原価低減活動。

④規範意識

不適切問題への対処として、「品質経営」を前提とする再発防止策の実行および企業集団としての当社グループ内におけるコンプライアンスの強化。

10年後の創立100周年への飛躍に向けてスローガンを進化させるためにも、人財の質と情報の質を高めることで、仕事の質や製品・サービスの質の向上へとつなげてまいります。

また、将来への種まきのために新市場や新ビジネスへの参入に向けた成長戦略の策定と実行、DXやAI技術を活用した革新的なモノづくりの構築を推進し、ステークホルダーの方々からさらなる信頼と満足を得られるようカヤバグループ一丸となって、成長と企業価値向上を目指してまいります。

最後になりましたが、カヤバ技報の継続発行がなされ、世界中のあらゆる技術者にとって本誌が貴重な技術情報源になることを願い、私のご挨拶とさせていただきます。

参 考 文 献

1) KYB80年史（2015年11月）

*当社代表取締役社長執行役員兼CEO